

**確認試験**

(1) 本品 1 g に水 50 mL を加えて煮沸し、放冷するとき、混濁した中性ののり状の液となる。

(2) 本品はヨウ素試液を加えるとき、暗青紫色を呈する。

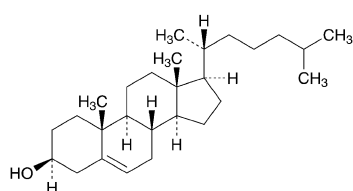
**純度試験 異物** 本品を鏡検するとき、他のでんぷん粒を認めない。また、原植物の組織の破片を含むことがあっても、極めてわずかである。

**乾燥減量** 15.0 % 以下 (6 時間)。

**灰分** 1.0 % 以下。

**コレステロール**

Cholesterol



$C_{27}H_{46}O$  : 386.65

Cholest-5-en-3 $\beta$ -ol [57-88-5]

**性状** 本品は白色～微黄色の結晶又は粒で、においはないか、又はわずかににおいがあり、味はない。

本品はクロロホルム又はジエチルエーテルに溶けやすく、1,4-ジオキサンにやや溶けやすく、エタノール (99.5) にやや溶けにくく、水にほとんど溶けない。

本品は光によって徐々に黄色～淡黄褐色となる。

**確認試験**

(1) 本品 0.01 g をクロロホルム 1 mL に溶かし、硫酸 1 mL を加えて振り混ぜるとき、クロロホルム層は赤色を呈し、硫酸層は緑色の蛍光を発する。

(2) 本品 5 mg をクロロホルム 2 mL に溶かし、無水酢酸 1 mL 及び硫酸 1 滴を加えて振り混ぜるとき、液は赤色を呈し、青色を経て緑色に変わる。

**旋光度**  $[\alpha]_D^{25}$  : -34 ~ -38° (乾燥後, 0.2 g, 1,4-ジオキサン, 10 mL, 100 mm)。

**融点** 147 ~ 150°C

**純度試験**

(1) **溶状** 本品 0.5 g を共栓フラスコにとり、温エタノール (95) 50 mL に溶かし、室温で 2 時間放置するとき、混濁又は沈殿を生じない。

(2) **酸** 本品 1.0 g をフラスコに入れ、ジエチルエーテル 10 mL に溶かし、0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液 10.0 mL を加えて 1 分間振り混ぜた後、ジエチルエーテルを除去し、更に 5 分間煮沸する。冷後、水 10 mL を加え、0.05 mol/L 硫酸で滴定する (指示薬: フェノールフタレイン試液 2 滴)。同様の方法で空試験を行う。

0.1 mol/L 水酸化ナトリウム液の消費量は 0.30 mL 以下である。

**乾燥減量** 0.30 % 以下 (1 g, 減圧, 60°C, 4 時間)。

**強熱残分** 0.10 % 以下 (1 g)。

**貯法**

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器

**コレラワクチン**

Cholera Vaccine

本品は不活化した小川型株及び稲葉型株コレラ菌を含む液状の注射剤である。必要ならば単株の製剤とすることができる。

本品は生物学的製剤基準のコレラワクチンの条に適合する。

**性状** 本品は白濁した液である。

**コロソポ**

Calumba

CALUMBAE RADIX

本品は *Jateorhiza columba* Miers (*Menispermaceae*) の根を横切したものである。

**性状** 本品は円盤状の切片で、厚さ 0.5 ~ 2 cm, 径 3 ~ 8 cm, 多くは両面の中央部がくぼみ、多少反曲し、側面は灰褐色で、不規則なしわがある、切面は淡黄色で放射状に濃淡のしまがあり、粉性である。皮部はやや黄味を帯び、形成層の付近は淡灰褐色を呈し、中央部にはいぼ状の突起がある。質は堅いがもろい。

本品は特異なおいがあり、味は苦い。

**確認試験** 本品の粉末 3 g に水 30 mL を加え、時々振り混ぜながら 5 分間放置した後、ろ過し、ろ液 2 mL に硫酸 1 mL を徐々に加え、冷後、塩素試液を穏やかに加えるとき、境界面は淡赤色～赤色を呈する。

**灰分** 7.5 % 以下。

**コロソポ末**

Powdered Calumba

CALUMBAE RADIX PULVERATA

本品は「コロソポ」を粉末としたものである。

**性状** 本品は灰黄色を呈し、特異なおいがあり、味は苦い。

本品を鏡検するとき、多数のでんぷん粒及びこれを含む柔細胞の破片、コルク組織の破片、石細胞の破片、繊維の破片、代用繊維の破片、道管の破片、仮道管の破片、シュウ酸カルシウムの単晶を認める。でんぷん粒は単粒又は 2 ~ 3 個の複粒で、へそは偏在し、通例、径 25 ~ 50  $\mu$ m, 大きくても 90  $\mu$ m 以下である。

**確認試験** 本品 3 g に水 30 mL を加え、時々振り混ぜながら 5 分間放置した後、ろ過し、ろ液 2 mL に硫酸 1 mL を徐々に加え、冷後、塩素試液を穏やかに加えるとき、境界面は淡赤色～赤色を呈する。

**灰分** 7.5 % 以下。